

奈良の歴史と文化に触れ、感性を磨く
目指すのは社会で活躍できる人材の育成

これからの新しい教育

仲川げん 奈良市長 × 中室雄俊 奈良市教育長

特集

これからの社会は、これまで私たちが経験したことのない速さで変化し、子どもたちは「予測できない未来」を生きていくことになるかもしれません。そんな新しい時代を生きる子どもたちには、時代の変化や多様な社会に合わせて柔軟に対応できる力や、主体的に考え、発想し、自分で答えを導きだせる力がより一層求められるのではないのでしょうか。それらを育むためには新しい教育の価値観と形が必要です。今の子どもたちのためになる教育とは何か、そして教育の本質とは何かを探ります。

仲川げん 奈良市長と
中室雄俊 奈良市教育長に
これからの教育についてうかがいました！



多様な社会を
生き抜くための力を養う
学校だけでない
多彩な大人と触れあう場

奈良市では平成22年度より、地域で決める学校予算事業に取り組んでいる。学校の先生とは違う地域の人たちとの交流で、子どもたちの多様性を育んでいく。そんな地域と学校をつなげてくれるのが、各校区に存在する地域コーディネーター。「取組をはじめて9年になりますが、今では地域コーディネーターが奈良市内の小学生400名ほどおられます」と話す中室雄俊奈良市教育長。

「学校だけではできない学びを、地域の人と触れあう中で育んできました。授業支援はもちろんのこと、学校内の図書ボランティアなど、活動内容は様々ですが、それぞれの学校に合わせて取り組んでいます。朝の見守りもたくさんの方が立ってくださり、地域で育む教育が各学校で進められています」と。学校の先生だけでなく、地域で活躍されている多彩な大人たちと触れあうことで、多様性も育まれていきます。決まったカリキュラムだけをこなすのではなく、学校では学べないことを地域の中で学ぶ。そういった学びが子どもたちの感性を育て、可能性を広げていけるのだと確信していますと仲川げん奈良市長。

出会う人によって、人生が大きく変わることもある。だからこそ、「子どもの頃にどれだけの良い大人たちと出会えたかが、教育においては重要」とも。奈良市ではその一役を地域コーディネーターが担っている。

問われる幼児教育の
今後の在り方と子どもたち
一人ひとりに合った教育

幼児教育においても奈良市では独自の部局を設け、すべての子どもたちが平等に教育を受けられるよう取り組んでいる。「入る施設の種類のによって受けられるサービスマンや質に差があるべきではない」というのが、仲川市長の強い思い。「どの子どもたちも同じ質の教育を受けられるようにするために、これまで別々のものであった保育園と幼稚園を同じ「幼児教育施設」としていくことが大切になってきます。奈良市でも幼児教育の在り方については、どういったカリキュラムが望ましいかを研究しています。3〜5歳になれば子どもたちの視野も行動範囲もどんどん広くなり、いろんな大人が関わる中で育つことが大事になってきます。そういった意味でもこれからは、幼児教育施設においても、地域とのつながりが大切になってくるでしょう」と仲川市長。



時代が大きく変化した今、これまでと同じ感覚や認識ではこれからの社会を生き抜くことはできない。「これまで、はじめにマニュアルどおりに仕事をこなしていくことで安定した生活を送ることができた。でもこれからは、それが保障されない時代が来ます。その時に、今の子どもたちがたくましく生きていくことができるような教育をしたい。これからは知識だけを覚え込むのではなく、正解のない多様な社会を突破していく力や、ないものを作り上げていくこととする発想力などが必要となってくる」と語る中室教育長。一方で、奈良市では学力向上システム「学びなら」というICTを活用した教育を実施している。「これまでは、子どもたちが一斉に同じ内容を学んでいた。しかし、子どもは成長のスピードも違い、タイプも異なります。テストで学習内容を確認しても、子どものつまづいていくところはそれぞれ違います。その一人ひとりの異なるつまづきに、きめ細やかに対応することができなかった。

奈良で育ち、学ぶからこそ
磨かれる豊かな感性が、
人間力を育む土台に

海外からの観光客も多く、ネイティブの英語に触れる機会も多い奈良市。2020年度からは小学校でも必修科目となる英語だが、これからの時代にはどんな英語教育が必要なのだろうか。

「語学として学ぶよりも、知りたいというモチベーションを持つのが一番良い。文法を学ぶことも大切ですが、それよりも自分の考えを伝えることに重きをおいた学びの方がより役に立つ」と仲川市長。確かに興味をもち、もつと知りたいという気持ち、学ぶことへの意識を向上させるきっかけにはなる。また中室教育長は、「英語で話すというスキルはもちろん必要ですが、忘れてはいけないのが話す中身を持っているかどうかです」とも。「話す中身があるかないかで、出



会う人は違ってくる。幸い奈良には、歴史や文化が深く根付いています。親子で奈良の歴史、文化、伝統をたくさん吸収して、自分の感性をどんどん磨いてほしい」と。それは、仲川市長も同じ思い。「奈良の子どもたちには奈良の強みや良さを最大限に実感しながら育ってほしい。多くの文化遺産をこんなに身近で感じられる街は、日本の中でもなかなかありません。奈良で暮らし、学んだからこそ感じられる感性を大事にしてほしいのです。それが自分のアイデンティティとなり、大人になった時の大きな武器となるはず」と。大きな空を眺めたり、昔のものに触れてみたり、奈良に住んでいるからこそできる方法で子どもたちの感性を磨いていきたい。

仲川げん 奈良市長の
公式サイトはこちら

